

## ◆ 今週のコメント

- ・ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(男性, 30歳代)あります。血清型・毒素型はO157(VT2)で、症状はありません。推定感染地域は国内で、推定感染経路は不明です。本年の累積報告数は22例です。
- ・ マラリア(熱帯熱)の報告が1例(男性, 20歳代)あります。本年初めての報告です。推定感染地域は、国外(ガーナ, トーゴ, ベナン, ブルキナファソ, タイ)で、推定感染経路は蚊からの感染です。過去5年間では、平成19年 2例, 平成20, 21年 なし, 平成22年 5例, 平成23年 1例の報告があります。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は3.10(127例)で、2週連続で増加しています。例年、11月から12月にかけて流行のピークがみられますので、今後の動向にご注意ください。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は0.78(32例)で、2週連続で増加しています。本年第19週(5月7日～5月13日)以降、過去5年平均値を上回る状態が続いています。

## ◆ 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.29(53例)で、前週(1.22, 50例)よりも増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- ・ 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 22例】
- ・ 四類: マラリア(熱帯熱) 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 12例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3.10	127
	② RSウイルス感染症	1.29	53
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.78	32
	④ 突発性発しん	0.49	20
	⑤ 水痘	0.44	18
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

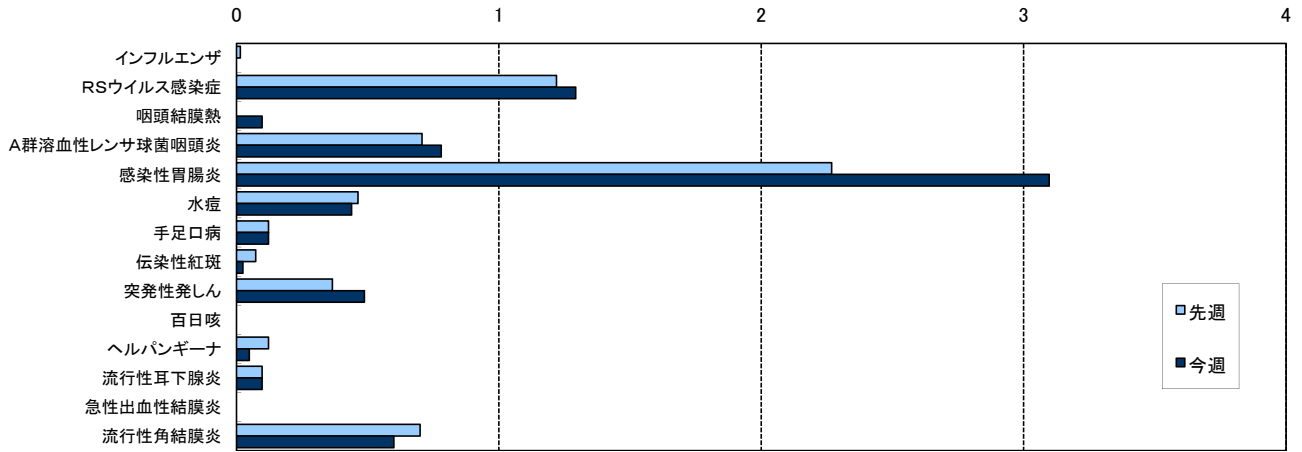
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

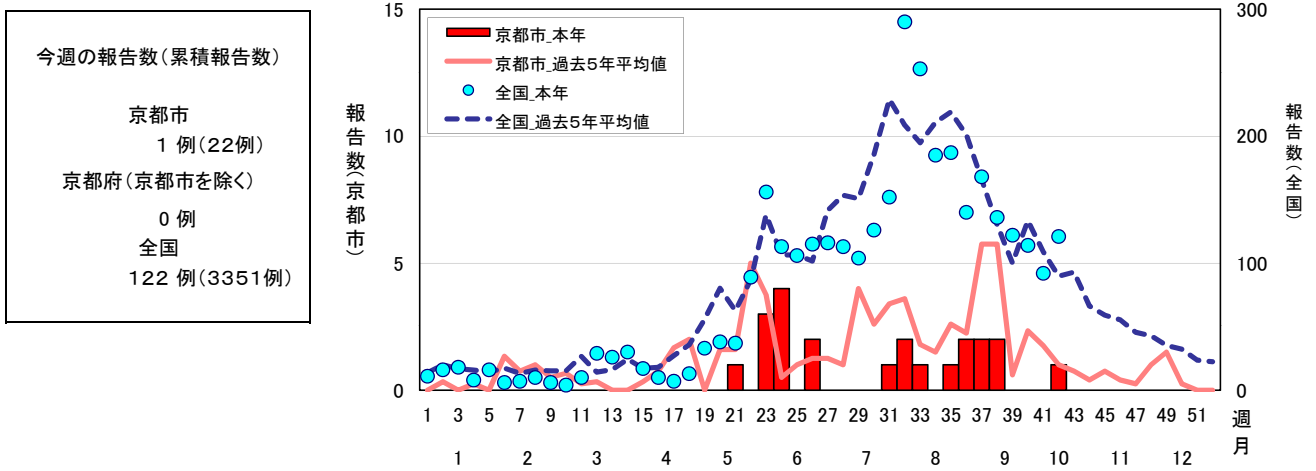
(注) 京都市のデータは、平成24年10月25日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第42週)と先週(第41週)の定点当たり報告数の比較

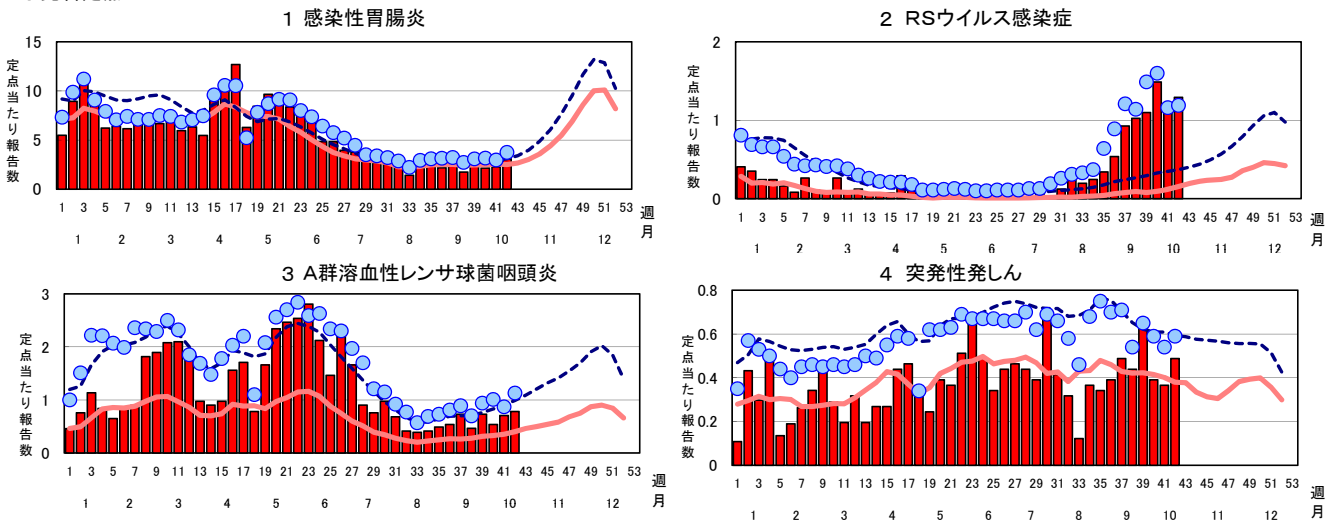


## 2 腸管出血性大腸菌感染症の推移

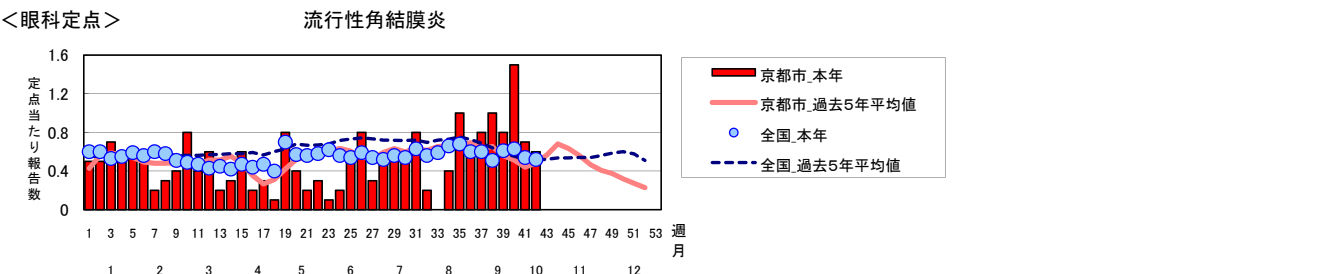


## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



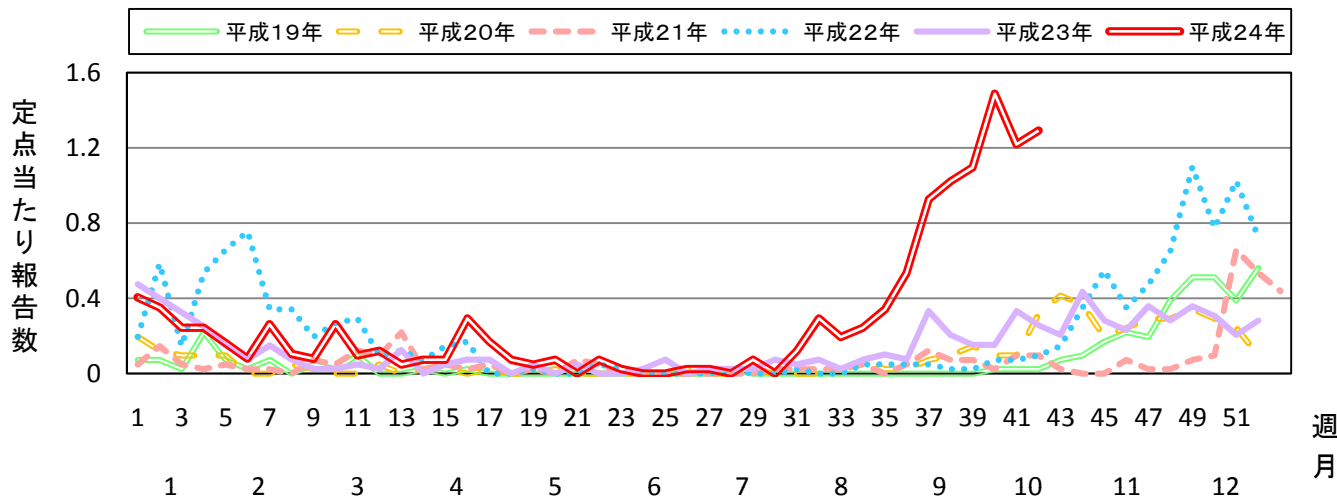
# 第42週(10月15日～10月21日)トピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.29(53例)で、前週(1.22, 50例)よりも増加しています。依然として例年の冬のピークを大きく上回る状態で推移していますので、今後の動向にご注意ください。

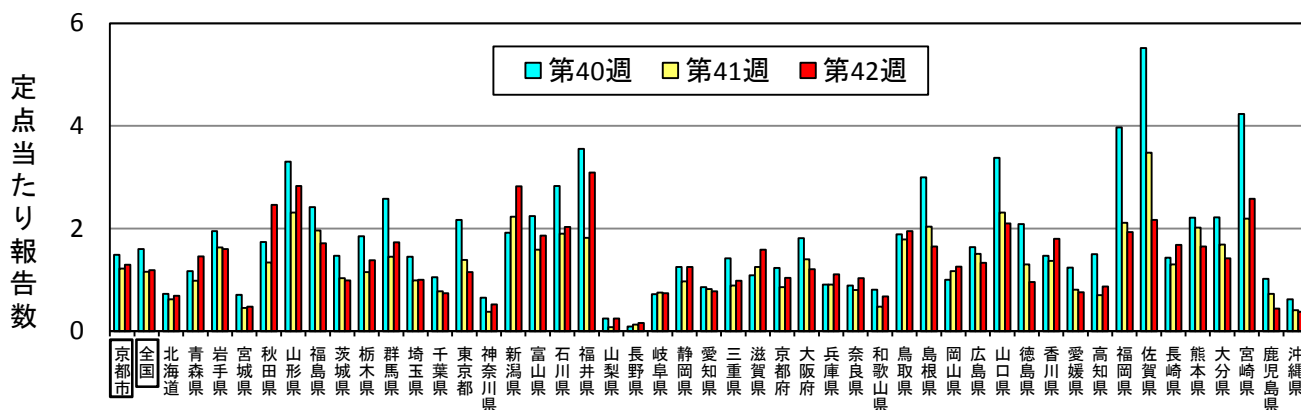
全国でも前週より増加しており、都道府県別では、前週より増加が28道府県、減少が19都府県となっています。

年齢群別割合の推移をみると、今夏の報告数の増加が始まった第29週以降の24週間は、過去に比べて、1歳の占める割合(46.6%)が高く、0箇所～5箇月の占める割合(11.3%)が低くなっています。第42週はさらにその傾向が強く、1歳が52.8%(28例)を占めており、次いで6箇所～11箇所 20.8%(11例)、0箇所～5箇所は9.4%(5例)となっています。

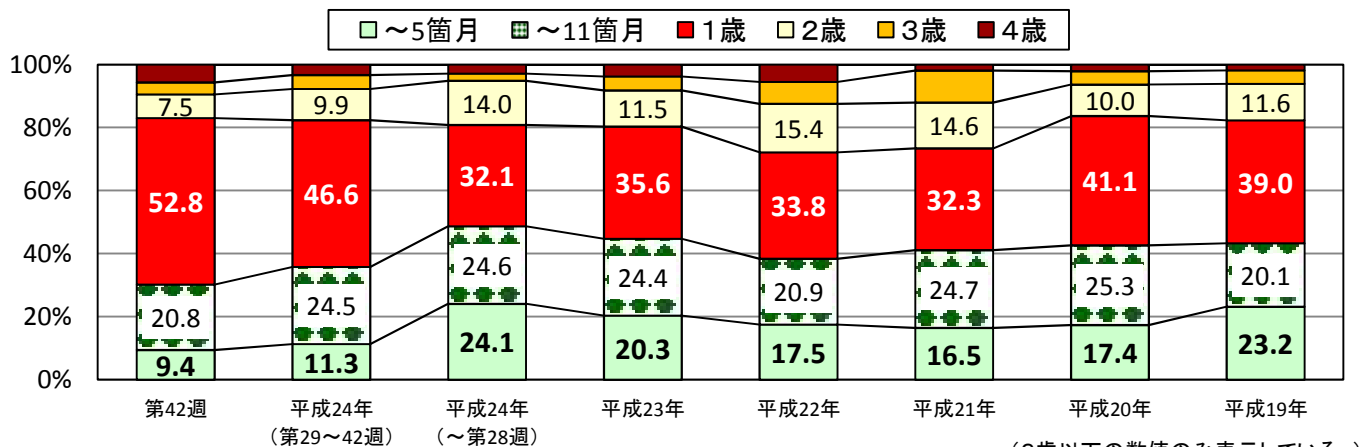
本市の定点当たり報告数の推移



都道府県別定点当たり報告数の推移



年齢群別割合の推移



(2歳以下の数値のみ表示している。)